
さらば、エクスプレス

姫奈那智

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さらば、エクस्प्रेस

【Nコード】

N2330H

【作者名】

姫奈那智

【あらすじ】

15年前起こった列車事故のより、一瞬ですべてを失った高広晃太。そして、事故から15年後の今。ひよんなことから行く事になった旅行で事故車の乗車者と出会う。しかし、旅行の参加者の一人が殺害され……。偶然か、それとも仕組まれたトリックなのか？
。 眞実は列車と共に……。

s t o r y 1 ・ (前 書 き)

推理となつていますが、おもいつきりの推理要素はあまりふくまれておりません。誤字、脱字があるとは思いますが、そこは温かい目で見てやってください。

s t o r y 1 .

「俺、列車の運転手になる！」

ああ、そういえばあつたな……。

「がんばる。がんばるからね！父ちゃん！」

今じゃその親父も死んじゃってるよ。

あれから何年経つのだろうか。

『横浜列車脱線追突事故』。

軽傷者128名、重傷者36名。

死亡者2名・・・。

新聞やテレビでは大きく扱われなかった。

しかし、死亡者がいる。

列車の運転手である俺の父と、巻き込まれた俺の姉。

あの日俺は、姉と母と近くのスーパーに買い物に行った。

いつも変わらない日常。

ただ違ったのは、

「あつちから行きたい！」

俺の言葉。

いつもは鳴らない踏み切りが鳴っていたのだ。

「父ちゃん通ったら、手振ろうね」

姉も乗り気で走ってゆく。その後を母が追う。

その時、

すごい勢いで列車がこちらに向かってきた。

覚えているのは、1111まで。

病院で目が覚めた時には、姉と父は逝っていた。

母は助かったものの、記憶喪失で事故のことも俺のことも忘れている。

今では再婚し、新しい家庭を持って幸せに暮らしている。

あの時、どれだけ泣いたことが。苦しんだことが。

もう進まない。俺の列車は止まったまま・・・。

story 2 .

それから15年。ところ変わって大宮。

高広晃太、25歳。

職業はファミリーストランでのアルバイト。

「コウ、コーヒー!!!!」

今叫んだのが、友達の三船藍。同い年で幼馴染み。

もう一人いるスーツが榊瑠伊。こちらも同い年で幼馴染み。

瑠伊は弁護士で、テレビで紹介されるほどの有名人。

ちなみに、今日集まったのは、昨日のことからだ。

昨日、俺はアルバイトから帰って家の郵便受を見た。

すると、一枚の見慣れない封筒が入っていた。

この度は、旅行ツアープレゼント係にご応募いただきありがとうございます。
ぞいます。

厳正なる抽選の上、あなた様が当選されました。おめでとつづい
ます。

下に書いてある日時に横浜駅にお集まりください。バスが到着しま
す。

日 7月20日～7月22日
時 9：30

「うーん？こんなものに応募したっけ・・・？」

とつか、普通おかしいよな…。説明少ないし。どこに行くのやら。
と、その時着信が来た。

「もしもし？晃太？」

「うん、俺だよ。」

「どうしたんだ？」

「いや、あの、俺、

旅行当たったんだ!!」

「え・・・今何て？」

「だ・か・ら・旅行!!!!」

そんなことあるだろうか・・・？幼馴染みにも同じ旅行の当選の知らせ。

瑠伊は、「運がよかったんだろう」と話していた。

しかし、もっと驚きの出来事が起こった。それは・・・

「私も当たったよ!!!!!!」

なんと、もう一人の幼馴染み、藍も当選していたのだ。

真剣に考えている俺に藍は言った。

「運がよかつたんだって！」

はあ……。そんなことあるのか……。

コーヒーを飲み終えた藍と瑠伊と仕事を終えた俺は家に帰る。

「今日はコウの家に行かない？」

「ちょっと俺は・・・旅行の準備するから」

「えゝ残念」

藍は口をとがらせて、反対方向に歩いていく瑠伊に手を振る。

「ねえ、コウはさ、旅行行く？」

マンションの扉を開けかけた俺に藍は聞く。

「うん・・・まあ、せっかく当たったんだし・・・」

「じゃあ、アタシも行くね！」

即答の藍。

「じゃ、今日はもう帰ったら？」

俺は藍に言う。

藍は嫌だと言う様に、俺のほおに優しく触れる。

「コウ、好きだよ」

「俺も、愛してる」

そして、俺たちは夜に落ちていった。

明日は旅行当日。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2330h/>

さらば、エクспレス

2010年10月10日03時41分発行